



1年生の皆様、入学おめでとうございます

健康生活学部 健康栄養学科長 徳留 裕子

新入生の皆様、名古屋文理大学入学おめでとうございます。これから始まる大学生活に大きな希望と期待そして一抹の不安を抱いて校門をくぐられたことと思います。

さて、高校までの教育と異なり、大学では各学部学科、それぞれに特徴のある専門教育が行われています。専門性の高い授業では、今まで聞いたこともない専門用語のシャワーを浴びることとなります。その中で、ある学生は好奇心をもって積極的に臨み、また、ある学生はカルチャーショックを受けている状況も散見します。しかし、本学の教育は講義と多くの演習・実習を通して、洞察力を養い、スキルアップを図っていますので、安心して本学で学ぶことができると思います。さらに、大学教育の重要な目的の一つである人間性の陶冶や社会性の向上を視野に入れた興味ある企画もいろいろと用意されています。

この専門の学問・学業の目標に達成するには、やはり、学生自身の努力も必要です。この学業の努力を助け、学園生活をさらに充実させる自学自習の場の一つとして「図書館」があります。

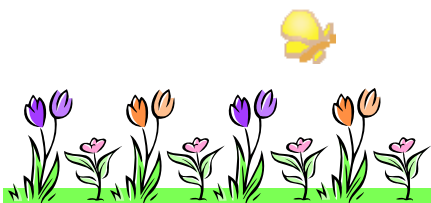
本学図書館は、大変明るく、見晴らしがよく、落ちついて学習、読書、思索のできるなかなか良い環境にあり、かなりの学生がお気に入りの場所に上げています。レポート提出や卒業演習・研究、校外実習、単位認定試験時が、最も学生が利用するところです。最近では調べたい事柄について、インターネットで検索してお手軽にレポート作成をする学生が増えています。インターネットは確かに瞬時に目的の情報を提供してくれますが、真偽のほどが不明で、体系的に示してくれることは少なく、専門家でない人が読むと時に間違った理解へと導かれます。その点、本はそこに書かれた先人のあるいは先端の世界を解き明かし、新しい知識や考え方を示してくれ、自分の世界を広げてくれます。このように、1冊の本は一つの世界を見せてくれ、その知識や世界観の掘って立つところまで理解できるところが楽しいものです。本にあまりなじめなかった学生は少し我慢をして本に付き合くと、目下の疑問以外に、授業でもお目にかからなかった面白い事実や事柄を発見して思わずニンマリすることもあります。読書好きな学生にとっても、高校までの図書とは趣の異なる本が多いと思いますので、大学時代の「座右の書」を見つけてください。

本学の図書館には約6万8700冊の蔵書があります。毎日1冊ずつ読んでも約188年かかるほどの蔵書です。何はともあれ、本を読むのは楽しいものです。4年間で、専門書であれ、文学であれ、趣味の本であれ、文理大学の蔵書のうち、最低1ヶ月に1冊、4年間で約50冊以上の読書の計画を立ててみませんか？

本学入学時の初心・志を忘れず、文理大学生として自覚と誇りを持って、大いに学び、大いに遊んで、充実した学園生活を送ってください。

目次

| | |
|---------------------|-------------------|
| 1年生の皆様、入学おめでとうございます | 1 |
| 本の紹介 | サイエンス・ライティング入門 2 |
| | 知っているつもりで知らない漢字 3 |
| セミナー紹介 | 佐原研究室 4 |
| 卒業演習紹介 | 健康栄養学科 5 |
| 卒業研究紹介 | 情報文化学科 6 |
| | 社会情報学科 7 |
| 図書情報センターから | 8 |



本の紹介

『サイエンス・ライティング入門』

落合 洋文 著

ナカニシヤ出版 ISBN978-4-7795-0139-5 定価 1,500 円+税 (2007.2)

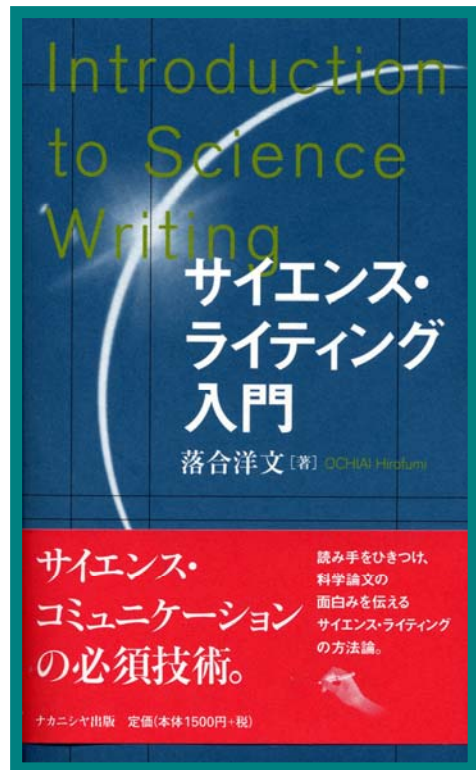
著者は本学の教務部長の落合洋文教授である。先生は京都大学で合成化学を学んで工学博士の学位を得てから、民間会社の研究所に就職し、更に改めて名古屋大学で修士(学術)の学位を得たということから分かるように、学問をすることに魅了され、その面白さを知っている先生が、若い学生諸君を対象に「科学論文の書き方と面白さ」を分かりやすく書いた本である。

人に物事を伝える方法の一つは文章を書くことであり、それが出来るのは人類のみで、人類が進化している動物であることを示す大きな特技である。我々のもっているその特技について本書では、如何に正確に面白く伝えるかについて、実に分かりやすく書かれている。プレゼンテーションの一つの技術である「科学論文の書き方」につき、簡潔に分かりやすく書いた本として、学生諸君にぜひ読んで頂きたい本として推薦したい。

本書の到達目標として、1. 効率よく情報を伝達できるように、正確な文章が書けるようになること、2. 科学を専門としない人々でも理解できるように、やさしい言葉で科学の内容を表現できるようにすること、が示されているので、読者は安心してこの到達目標を目指してこの本を読むとよい。

本の構成は、第7章から成っており、第7章では文章力を高める5つの方法として、「基本は文章デザイン」、「上手な文章をまとめる」、「多読と精読で言語のセンスを磨く」、「事実に語らせる」、「カードを使いこなす」に分けて、懇切丁寧に説明している。座右に置きゆつくりと読んで頂きたい。

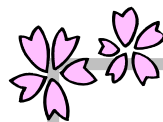
最近はグローバルスタンダードで我々の身の回りを見渡してみることが、世界とのずれを自覚する良い方法であると言われている。その方法で我々の身の回りを見ると、意外にグローバルスタンダードと離れていることが多いのに気がつく。最近知ったことだが、日本語の分かる外国人の評価では、日本のアナウンサーは欧米のアナウンサーに比べアナウンサーが自分自身で見た描写表現が少ないというのがある。多分日本のアナウンサーは自分自身で見たことを自分の言葉で描写するのが少ないと言



うことであろう。日本のアナウンサーが国際レベルより低いとなれば、我々はもっと文章表現方法を考えて、良い方法を身につけて利用し、よりスムーズなコミュニケーションを楽しみたいものである。

【本の紹介者】

奥村純市:図書情報センター長、教授



本の紹介、原稿募集中!!

このページに掲載する本の紹介文を募集しています。お気に入りの本を紹介して下さい。詳しくは、図書館カウンターまで



『知ってるつもりで知らない漢字』

漢字の愉しみ研究会 著

PHP ソフトウェア・グループ ISBN4-569-62422-7 定価 1,365 円(税込) (2002.8)

携帯電話のメールの普及に伴って、手書きで文章を書く機会が少なくなりました。漢字なんて苦手だというあなた、漢字は全部変換機能におまかせ、読むことは何とか読めても、いざ書こうとすると書けないという漢字が増えてきてはいませんか。

この本では、日頃私たちが当たり前だと持って使っている漢字の「意外な本来の意味」が集められています。

少し漢字の歴史を振り返って見ましょう。漢字は、「漢(中国)」の「字」、つまり中国の字です。漢字が初めて作られたのは、今から6,000年前ともいわれていますが、この頃のもの、絵とも文字とも記号ともはっきりしないものでした。現在発見されているはっきり文字とわかる最も古い漢字は、紀元前13世紀頃の「亀甲獣骨文字(きっこうじゅうこつもじ)」と呼ばれるもので、カメの甲や、獣の骨に刻まれたものです。その後長い中国の歴史の中で漢字は発達し、1世紀ごろ日本へ伝わりました。そのころの日本は文字のない国でした。初めて目にしたときは文字としてではなく、おそらく模様として認識されたであろう漢字が、やがて中国との交易を通して、文字として理解され、私たち日本人は自分たちの言葉を書き留めることが出来るようになっていったと考えられています。

「漢字って面倒くさい!」「漢字なんて必要ない!」漢字に対して、こんな風に思っていないか?だとしたら大間違い!!漢字がなかったら大変です!

かなだけの文章では伝えたいことも思うようには伝わりません。実際、漢字がなかったら同音異義語をいちいち頭の中で判別しなくてはならなくなり、文章を読むことが今以上に苦痛になるでしょう。その点、表意文字である漢字は見ただけで、

その意味をとらえることができる非常に便利なものです。

そんな便利な漢字も長い歴史の中で、途中で意味が変わってしまい、本来の意味と現在の意味との間に大きなずれが生じているものが少なくありません。また明治以降、日本語の表記は簡素化や統一が図られ、1946年に当用漢字が、1981年には常用漢字が告示され、字体の省略が行なわれ、『新字体』が多数採用されました。その結果、漢字が本来もっていた意味がわかりにくくなってしまいました。

象形文字にはじまった漢字の歴史・本来の意味を紐解いてみませんか。

この本では、『人生を問う漢字』『学びの漢字』『道徳の漢字』『身近な漢字』『数字』『見慣れた熟語』『書き換えられた熟語』に分類し、漢字の持つ本来の意味を解説しています。一例を挙げると、糸のようにもつれる心が『恋』、丸々と太った羊が『美』、曲がりくねった長く続く道が『寿』、自由を奪う足かせが『校』、口から出た心が『言』などなど。

『恋』が糸のようにもつれる心を表しているときけば、誰もが納得!今まで無味乾燥だった『恋』という漢字も可愛くなってきませんか。この本に紹介されている漢字の語源になるほどと納得させられたり、

「えっ?」と驚かされたり、新しい発見がたくさん詰まっているはずです。また、歴史の一面も覗き見ることができ、楽しめます。

【本の紹介者】

石川 豊美：
健康栄養学科
助教



情報をどのように伝えるか。

佐原研究室

design and art through visual communication

MEDIA ARTAND DESIGN

ビジュアルコミュニケーションとは、複雑な事象を分解整理し、統合することで、理解しやすい形を提示することです。

例えば、盲目の方の支援をするポスターを作りたいというときはどうするでしょうか？まず、取材です。ともかくにもまず知る、認知することです。そこで得た知識や体験を整理、分析し、ディスプレイヤーの方々の生の経験をや現状を整理します。第三者の目を引くものを制作するのがまず第一歩。その次は、第三者に障害者の感じていることを伝えたり、その伝えたい内容に引き込み、理解してもらうことがもう一歩上のビジュアルコミュニケーションデザイン。そこで、白い大きな背景に手の形を入れ、その中だけに触っている（見えている）風景を入れ込みます。そうしたら、手で触っている狭い範囲が認識している範囲で（もちろん聴覚から認識できるものもたくさんあります）が、ココでは置いておいて）生活をおくる社会の中で、彼らの見えているものを視覚に置き換えるなら、その範囲しか見えないということが伝わるでしょう。

これは、ポスターに障害者の方の言葉を掲載したり、支援をお願いしますという言葉のせるよりも一つのイメージだけで、遥かに多くのことを第三者の心に届けることが出来るでしょう。

アートとデザインは違うのか。答えは「違う」です。相手の考えているものを理解して、それを第三者に伝えるメディアを作り出す。それがグラフィックデザイン。それに対して、自分の譲れないことや想い、思想を、表現することがアートです。

商業的であるか、個人的であるか、ここに大きな差がある訳です。私たちの身の回りには、多くの美術作品が溢れています。デザインという言葉も、その意味を大きく拡大され、ブランドニングするという意味合いで多く使われています。ブランドニングするまでがデザインで、実際もの作りのは工芸である、というのが普通です。しかし、ものづくりをする中で、実際の素材や制作の知識経験を得ることは非常に重要です。私の研究室では作品を鑑賞し、素材を知り、実際にデザインする行程を大切にします。

健康栄養学科

卒業演習紹介

健康栄養学科の学生は、4年生になると「卒業演習」の授業を受講します。3年生まではA・Bクラスに分かれて約40人が単位となって授業を受けることが殆どですが、4年生からはクラス制ではなく、各卒業演習担当教員の指導のもと、最後の学生生活を送ることになります。シラバスにもありますが、この演習を通して「相手への思いやりや自己表現する力を持った知性ある心豊かな人間性を備えた」人間として成長して欲しいと思います。では、どのような卒業演習が実際に行われるのか、代表的な演習を紹介したいと思います。その他にも、魅力ある研究室ばかりです。1年生時より、各研究室の雰囲気を見に行ってはどうですか！

■解剖生理学研究室 平林義章教授 担当

「短肢症マウスの組織化学的検索」軟骨の低形成により短肢症を自然発症するマウスには、BALB/c系のアルビノマウスとC57BL系の有色マウスがあります。これらの短肢症マウスは、硫酸基転移酵素のポイントミューテーションにより種々の組織で低硫酸化を呈するが、その程度や発現領域は両者で大きく異なります。本研究室では、この2系統のマウスを用いて、種々の器官の低硫酸化の程度を光顕組織化学的に検索し、その機能について考察します。

■応用栄養学研究室 江上いすず准教授 担当

18年度の卒業演習

1. 「地産地消の推進とライフステージ別の新しいメニュー開発への取り組み」
稲沢市特産物の「千両なす」を使用して今までにないナスの料理を開発しました。市内のレストランでランチメニューを期間限定で売り出し、試食された方に対してアンケートをとり、集計・考察しました。
2. 「高齢者に対する栄養アセスメントとケアプランの実行と効果の判定」
I市における特定高齢者に対する介護予防教室の栄養改善事業の栄養部門を担当し、栄養教育の補助を行いました。また、教室参加後の意識や体重の変化などを分析し、考察しました。
なお、19年度は「大学生に対する栄養ケア・マネジメント」を予定しています。

■栄養教育学研究室 辻とみ子准教授 担当

「栄養教育実践；児童への食育支援活動」豊かさのなかで日本の食生活が大きく変容し、家庭内の食事内容や食卓風景が様変わりした。食生活の乱れから不定愁訴もみられ、健康が危惧されている。そこで本ゼミでは早期から適切な食習慣の形成と確立を図るために“早寝、早起き、朝ごはん、共食で”を掲げ、実践栄養教育を通して日々の食生活の大切さや主食、主菜、副菜の適切な組み合わせと適量、偏食の是正などを演習テーマに、手づくりのフードモデル、トランプゲーム、はてなボックス、紙芝居やペープサート、調理実習などを小学校に出向いて実践しています。

■食品学研究室 市川和昭教授 担当

「脂質に関する食品化学的な実験研究と調査研究」脂質は、炭水化物、タンパク質と並んで三大栄養素のひとつであり、エネルギー源や必須脂肪酸としての役割、おいしさ、生体構成要素、生理機能など、多くの大変重要な役割をはたしています。とくに日本人の食生活の大きな変化が肥満、高脂血症、動脈硬化、高血圧、心臓疾患、糖尿病、がんなどの生活習慣病を増加させ、そのことに脂質が深く関わっていると言われています。脂質に関する食品学的研究を通して、日本人の健康について考えていきたいと思っています。研究室のメンバーは、真面目でやる気満々、精力的に研究をしています。

■生化学研究室 竹中晃子教授 担当

生活習慣病は生活習慣と体質との両方によって発症します。この体質という言葉に近年分子のレベルで説明をつけられるようになってきました。内臓脂肪型肥満はβ3アドレナリン受容体遺伝子の多型によって説明されるようになり、日本人3割、欧米人1割が一塩基置換多型を有し、消費エネルギーが200kcal少ないことが示されています。今後の管理栄養士には分子栄養学の知識が必要であるので、霊長類のDNAの多型解析を行い、遺伝子と栄養について考察します。

情報文化学科

卒業研究紹介

去る3月15日、本年度の卒業研究の中から卒業研究学長賞として推薦を受けた15の研究に対して、研究者の表彰と賞品の授与式が行われました。すべての研究を紹介したいところですが誌面の都合上、情報文化学科は各研究室につき1件ずつ計6件、社会情報学科は6件すべての研究を紹介し、指導教員からのコメントを掲載いたします。

■テーマ:デジタルビデオカメラと動画編集ソフトを用いたムービーの作成 伊藤 修

この研究は、デジタルビデオカメラとビデオ編集ソフトを活用して、ドキュメント・ムービー作品を制作したものである。内容は、愛知学院大学に通う友人に密着取材して、彼のクラブ活動『ラクロス』という珍しいスポーツと彼の人間性に迫ったものである。

豊田君と伊藤君は、3年次から仲がよく、また、ビデオコンテンツ制作にも興味を持っていたが、4年になってからは、制作作品に一段と冴えがみられ、スキルの向上も感じられた。この作品は、彼らにとって4年間の総決算的なものであり、完成度の高さと2人のチームワークの良さが評価できる点である。(指導教員:森博教授より)

■テーマ:携帯電話と携帯ゲーム機で実行するm-Learningのユーザビリティに関する比較 井上 博之

井上博之君は、合気道部の部長やサークル協議会での活躍に加えて、卒業研究でもリーダーシップを発揮し、優れた研究成果を残した。研究は、ケータイやPSP(プレイステーションポータブル)などのモバイル情報端末で利用するWeb上のモバイル学習(m-Learning)システムの使用性を、人間工学実験によって評価し、有用な評価結果を示したものである。彼は、研究成果の一部を学内卒業研究発表会(2月6日)で口頭発表したほか、電子情報通信学会2007年総合大会(3月23日)でも発表を行った。詳しい報告は「はせがわ研究室 卒業研究報告 2006」という冊子に製本され図書館の指定図書コーナーで閲覧できるほか、はせがわ研究室のWebページからも閲覧できる。(指導教員:長谷川聡准教授より)

■研究テーマ:音楽と情感 村松 優子

音楽と情感という、音楽心理学上の大変難しいテーマに取り組み、モーツァルトの楽曲の研究を行いました。哲学的領域に及ぶ関連文献を調べ、ほとんど独力で、モーツァルトのピアノ曲について分析しました。変奏形式中の各変奏に対し、その曲の持つ情感について詳細な分析を加え、慎重かつ大胆に仮説を提案し結論としています。難解なテーマに対してよく取り組み卒業研究にまとめ上げたと思われます。評価に値する研究と考えます。(指導教員:吉田友敬准教授より)

■研究テーマ:少年犯罪について 久世 有佳里

本論文は、近年ニュースなどで取り上げられている若年者の犯罪について、歴史的、社会的背景から論及したものである。アンケートによるデータをもとにした統計学的分析を行ったり、日米の少年 犯罪比較を行ったり、本学で修得した研究手法に加え、独自の手法を用いた研究を行っており、大変興味深い研究論文となっている。(指導教員:佐久間重教授より)

■研究テーマ:Javaによる対戦型シューティングゲームの作成について 難波 良徳

本作品は、Java言語を使って2D対戦型シューティングゲームを制作したものである。既存のプログラムをベースにしているが、ゲームを実現するには各種のキャラクタの振り舞いを表すための部品がまったく不足しており、時間をかけてそれらの部品を一つひとつ緻密に作成した。完成度の高いコンテンツを作成したと考え推薦する。なお、本作品は田近ゼミのWebページに掲載予定である。(指導教員:田近一郎准教授より)

■研究テーマ:集中力の色彩依存性 辻 知里

色彩がヒトの集中力に与える影響を調べた。彩色した皿に盛った大豆を、制限時間内に別の皿に箸で移す実験を行い、移した豆の数をカウントした。その結果、白と寒色系の色で集中力が増し、黒と暖色系の色で集中力が低下することが分かった。辻さんは、文献調査から実験計画・考察までを、主体的に遂行でき、信頼できる研究成果が得られたので、卒業研究学長賞の受賞に値する。(指導教員:横田正恵准教授より)



授賞式の様子 (H18年3月15日) ➡

社会情報学科

卒業研究紹介

平成 18 年度卒業研究学長賞を受賞した 6 件の研究を紹介します。

■テーマ:不動産会計に関する基礎研究

石川ゆかり

石川さんは、不動産に関心を持ち、私の卒業研究では、その会計問題に焦点をあてて卒業論文の執筆を行った。論文では、不動産の意義、不動産業の範囲、不動産業簿記、不動産に関する会計原則・鑑定基準などを検討し、国際会計基準第40号「投資不動産」と日本基準とを比較した。その結果、両者の差は大きく、日本では不動産自体の問題もあり投資不動産の会計基準は未定であり、公正価値の導入の問題・フレームワークの違いも一因であるとした。総じて、「不動産」は、法や会計の体系が不明瞭であり、公正価値導入は経営方法や情報開示に影響を与える。早急に会計基準の整備が望まれるが、国際会計基準の「投資」と日本の「賃貸不動産」の意義を明らかにする必要があると結論づけた。わが国の会計基準の未整備を指摘する意欲あふれた卒業研究である。(指導教員:吉田洋准教授より)

■テーマ:感情表出とこころの健康

佐藤知美

感情表現や自己開示の適切さとメンタルヘルスとの関連性についての研究である。感情表出にかかわるパーソナリティ特性と、ストレス対処行動や健康度との関連性について、大学生 156 名を対象として調査を実施し、適切に感情表出できる人は、積極的に対人コミュニケーションを計ることでストレスに対処していること、また、こころの健康度も高いという知見が得られた。正確な手順を踏んで調査を企画・実施し、データを集計分析して、卒業論文として十分な成果が得られた。(指導教員:山田ゆかり教授より)

■テーマ:自己効力感と対人ストレス

丸山いずみ

本研究では、対人ストレスに関するストレスイベントの認知とそれへのコーピング(対処)を規定する要因の検討を意図して、自己効力感との関連性がテーマとされた。大学生 132 名を対象として調査を実施した結果、自己効力感は、対人ストレスから身を守る大きな要因の一つであるというたいへん興味ある結果が得られた。実証的研究に積極的に課題にとりくんだ姿勢は高く評価でき、学長表彰にふさわしい卒業研究となった。(指導教員:山田ゆかり教授より)

■テーマ:NPOと緑化運動

原 幸子

原さんの卒業研究は、身近にある稲沢の緑化問題を研究テーマとして取り上げ、また自ら熱心に稲沢の緑化に関する市民活動に参加し、その体験をもとに書き上げたものである。わたしたちが生活している環境において、緑がどんどん消えていくのが現実である。もちろん、緑を増やしていくことは、行政の責務である。しかし、わたしたち市民ひとり一人も、何ができるか、考えなければならないであろうと著者が強くうたえた。(指導教員:林慶雲助教授より)

■テーマ:消費者主権とその問題

伊藤 舞

伊藤さんは、消費者の経済行動で被害にあっていることに関心を持ち、消費者主権について研究を深めようとしてテーマを選びました。論文の内容は、最初に消費者主権の定義を明確にすると共に、主権擁護の制度を調べ、この制度が必ずしも十分でないことを指摘している。そして、消費者主権の侵害である消費者問題を類型化する着眼点は秀逸であり、さらにオリジナリティーのある消費者主権擁護対策も示しているおり、この論文の構成・論理の展開は学長奨励賞にふさわしいものである。(指導教員:関川靖准教授より)

■研究テーマ:経営戦略におけるロジスティクスの重要性

川田修平

川田さんは、自身がビジネスにおいて文房具の小売店をコンサルティングした経験から問題意識を持ち、ロジスティクスが企業経営に与える影響について研究した。主な内容は(1)物流とロジスティクスの企業における役割の重要性、(2)企業経営におけるロジスティクスの必要性、(3)経営戦略におけるロジスティクスの役割と競争優位の論証さらに、グローバル化、コンプライアンスの確保について課題を指摘した。事例研究として、アスクル株式会社の流通システムの構造を分析した。社会人として時間のやり繰りをしてよく頑張った。卒業研究学長賞にふさわしいと思います。(指導教員:城田吉孝教授より)



社会情報学科, 情報文化学科の受賞者

図書館情報センターから

OPAC システムのご案内

図書館で目的の資料を探す時、みなさんはどうしていますか？書棚を見ながら地道に探している人。図書館に入るなりカウンターで所在を尋ねる人。どのように探しても、最終的には目的の資料の所蔵や所在を確認することはできるでしょう。でも、少しでも効率よく目的の資料の所蔵や所在が自分で確認でき、資料を手にすることができたら、と思いませんか？

図書館には、OPAC という蔵書検索システムがあることをご存知ですか？図書館を利用している人も、OPAC を利用している人は、まだまだ少ないのではないのでしょうか。本学では、図書館内の専用端末はもちろんのこと、学内のネットワークを利用できるどのパソコンからでも OPAC へ接続することができます。まずは、図書館ホームページを閲覧してみてください。OPAC の利用方法の詳細や開館日、その他いろいろな情報を知ることができますと思います。

■図書館ホームページ

付属図書館
ようこそ図書館ホームページへ!

- 開館日(カレンダー)
- 館内の施設について
- 館内の利用について
- お知らせ
- 連絡先所在地
- 図書だより
- 情報機器貸し出しについて
- 学生用メールリスト使用規定(学内専用)
- 蔵書検索(学内専用)

こちらのリンクから
OPAC を利用できます

■OPAC システムのメニュー画面

OPACシステム | ホーム

名古屋文理大学図書館

- 蔵書検索 → タイトル, 著者, 出版社等, キーワード から資料
- 新着照会 → 新着資料の照会
- 貸出予約照会 → 貸出中の資料の予約
現在自分が借りている本や返却日の確認

平成19年4月

編集：名古屋文理大学図書館情報委員会

〒492-8520 稲沢市稲沢町前田 365

TEL：0587(23)2400 FAX：0587(21)2844

e-mail：toshokan@nagoya-bunri.ac.jp